

平成30年度千曲市さらしなの里歴史資料館講演会

～世界を魅了する縄文文化 『縄文人の心と文化力』



千曲市門光房遺跡出土 人面付小形深鉢土器
(千曲市指定文化財)

今、日本の縄文文化は世界の注目を集めている。特にドイツ・フランスなど、ヨーロッパではその注目度が高く、「火焰土器」や「縄文のビーナス土偶」は海外でも展示会が催され、外国人を魅了して止まない。芸術家岡本太郎は縄文土偶と出会って「なんだこれは！」と驚嘆し、縄文土偶のデザインをデフォルメし、大阪万博のシンボルとなった「太陽の塔」を造った。

縄文文化は現代人を魅了するとともに不思議な力をもっている。その文化について、縄文研究の第一人者である小林達雄先生に語っていただく。

講師 小林達雄先生

國學院大學名誉教授

新潟県立歴史博物館名誉館長

日時 平成31年3月17日(日)
午後1時30分～3時30分
場所 千曲市さらしなの里歴史資料館
体験学習室
聴講 70名(先着順)
聴講料無料(館内見学は有料)
お問い合わせ 千曲市さらしなの里歴史資料館
長野県千曲市大字羽尾247-1
TEL 026-276-7511 FAX 026-261-4161



千曲市輻田遺跡出土
住居址逆位埋設埋甕と拓影図

小林達雄(こぼやし・たつお)先生

略歴

1937年新潟県生まれ。國學院大學博士課程修了。文学博士。東京都教育庁文化課、文化庁文化財調査官を経て、78年國學院大學文学部助教授、85年より同教授。ウイスコンシン大学、プリティッシュ・コロンビア大学、ケンブリッジ大学考古学部など在外研究をする。2008年3月大学を退官。現在同大学名誉教授、新潟県立歴史博物館名誉館長。NPO 法人ジョーモネスクジャパン理事長

著書

『縄文土器の研究』(学生社)、『縄文人の世界』(朝日選書)、『縄文人の文化力』(新書館)、『縄文人追跡』(日本経済新聞社)、『世界史のなかの縄文』(佐原真氏との対論、新書館)、編著に『縄文土器大観』全4巻(小学館)、『縄文文化の研究』全10巻(雄山閣出版)など多数がある。